

# ブラック・フライデーとフィラデルフィア

成田 滋

11月第4木曜日のアメリカでの感謝祭の翌日の金曜日は、一般的にブラック・フライデー(Black Friday)と呼ばれます。アメリカでは1年でショッピングで最も賑わう日の一つとなっています。伝統的に全国チェーン店や小売店では、様々な商品を限定的な特価で販売します。買い物客は店舗にだけでなく、オンライン上の同様の特価セールに殺到します。ブラック・フライデーという言葉は、感謝祭の翌日に大規模なセールが行われ、ようやく黒字に転じる、つまり「黒字になる」という概念に由来していると多くの人に信じられています。しかし、これは事実ではないようです。

ブラック・フライデーの由来は1960年代初頭にさかのぼります。フィラデルフィアの警察官が「ブラック・フライデー」という言葉を使い始めたのが最初といわれます。フィラデルフィアの郊外から大勢の観光客が市内に押し寄せたこと、年によっては土曜日に恒例の陸軍大学対海軍大学のフットボールの試合のために、街が大混雑したようです。交通渋滞や事故、万引きなどの問題は警察の頭痛の種となり、通常よりも長いシフトを組むことを余儀なくされます。こうして、ブラック・フライデーという言葉はフィラデルフィアに定着します。商人たちはこの日を「ビッグ・フライデー(Big Friday)」と呼ぶことで、よりよい印象づけをしようとしています。



歴史的に見るとブラック・フライデーにはショッピングとは無関係だったようです。「ブラック」という形容詞は、災難が起こった日に使われてきました。ブラック・フライデーと形容される出来事は数多くありますが、アメリカ史上最も重要な出来事は1869年のパニックです。ウォール街の金融業者が、ニューヨーク金取引所で、貴金属価格を高騰させる目的で、大量に貴金属を購入し、国内の金市場を支配しようとしています。この操作を知った当時のユリシーズ・グラント大統領は、財務省に金の大量放出を命じます。株式市場はたちまち急落

し、何千人ものアメリカ人が破産に追い込まれたといわれます。これが 1869 年 9 月 24 日金曜日だったのです。

店の売上がプラスになることも意味する「ブラック・フライデー」という言葉が全国的に広まったのは、1980 年代後半になってからです。ブラック・フライデーは、クリスマス商戦の開始日ともいわれます。店舗がその年の利益を上げ始める日であり、アメリカ最大のショッピングデーとなります。1952 年以来、「ブラック・フライデー」は、ほとんどの店がクリスマス前の土曜日としては最大の売上を記録するのは間違いありません。ともあれ、フィラデルフィアで起こった大勢の買い物客による混雑した商戦が「ブラック・フライデー」というフレーズを定着させていったといわれます。

(2023 年 11 月 24 日)